富山の最新ニュース
webun
北日本新聞
ふるさと風土記

滑川市早月加積地区／清流の里めぐり　２０１４年８月２０日

８．エドヒガン

■将来はサクラの名所に

「千年桜」という美しい別名を持つ長寿のサクラ、エドヒガン。滑川市内では２本しか確認されておらず、その貴重な１本が早月加積地区にある。樹齢約１００年、高さは約１４メートル。毎春、見事な花で住民たちを楽しませてきたが、いまは“養生中”だ。

住民が異変に気付いたのは２年ほど前。枝が無残に枯れ落ち、花のボリュームが目に見えて減った。住民たちが心配して樹木の専門家に調べてもらったところ、樹勢が急速

に衰えていた。

「早月加積小学校があったころから、この木は地区のシンボルでした。地元で大切に世話をしてきたんです」

７月下旬、追分の早月加積幼稚園グラウンド脇。古木の前で、市議を務める地元の岩城晶巳（てるみ）さん（６２）が言う。この木とともに育った１人だ。

幼稚園の場所には、かつて早月加積小学校があった。１９６７（昭和４２）年、火災で校舎を焼失。学校は浜加積小学校と統合し、別の場所に東部小学校ができた。

住民たちは、火災をくぐり抜けたエドヒガンの手入れを続けてきた。追分の町内会や福寿会のほか、幼稚園の職員や保護者、隣にある地区公民館の職員も草むしりや防除をし、春を楽しみにしてきた。

「入園式の日に花びらが風でばあっと散る光景なんか、本当にきれいなんですよ」

岩城さんの横で同幼稚園長の村崎美子さん（５５）が笑顔で話す。それだけに、樹勢の衰えはショックだった。

木を衰えさせた原因は、木の前にある駐車場のアスファルト舗装だった。８年前に舗装されて以降、地下の根が酸素や水分をうまく吸収できなくなったようだ。市はことし５月、舗装を一部はがして腐葉土を敷き、看板も立てた。

“養生中”のエドヒガンの周りには、火災の後、住民が植えてきたソメイヨシノなど２０本以上のサクラがある。

「数年後にはきっと、エドヒガンも元気になる。将来、市内一円から人が訪れるサクラの名所にしたいんです」

地区の自治会連合会長、梅次直樹さん（６４）が言う。夢という大きな花を咲かせるため、住民の保存活動は続く。

■遠望近信　石坂猛さん（６２）奈良県葛城市、鶴見花き卸売市場協同組合事務局長

早月加積小学校に通っていました。毎日、２キロほどの道のりを歩いての通学です。大変だったのは冬。黒いマントを着て、高学年の児童が踏んで作ってくれた雪道を付いていったものです。

早月川沿いの林で冬のウサギ狩りや、山芋掘り、栗拾いを楽しみました。木造だった月形橋の河川敷で七夕飾りを燃やしたことや、町内外の盆踊りで「新川古代神」を踊ったことも思い出深いですね。

古里は心のよりどころであり、忘れがたい存在です。帰る場所があることは、ありがたいことです。（栗山出身）